

資料

- 1 令和4年度生涯学習推進体制の整備状況調査票
- 2 令和4年度生涯学習に関する住民の意識調査票
- 3 ほっかいどう学地方創生塾実施要領
- 4 令和2年度ほっかいどう学地方創生塾開催要項
- 5 令和3年度ほっかいどう学地方創生塾開催要項
- 6 令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事前アンケート用紙（鷹栖町）
- 7 令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事後アンケート用紙（鷹栖町）
- 8 令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事前アンケート用紙（芦別市）
- 9 令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事後アンケート用紙（芦別市）
- 10 令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事後アンケート用紙（参加者用）
- 11 令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事後アンケート用紙（担当者用）
- 12 令和3年度ほっかいどう学地方創生塾アンケート用紙

【入力に当たっての留意事項】

- 1 令和4年6月1日現在の状況を入力ください。
- 2 このセル（網掛け）のみ入力してください。前年調査から修正する部分は赤字で表示してください。
- 3 行・列の挿入はしないでください。前年入力済の欄を空欄とする場合はセルの色を黄色に変更してください。
- 4 項目によっては、ドロップダウンリストで選択する場合があります。

I 各種宣言について

	有無	宣言の名称	宣言年度
1 「生涯学習推進のまち」など、生涯学習の推進に係る宣言			
2 「生涯スポーツのまち」、「健康づくりのまち」などの推進に係る宣言			

II 各種構想・計画の策定状況について（各項目最大3つまで）※ホームページに掲載がある場合はURLを欄外右に記載

	有無	構想・計画等の名称	施行年度	終了年度
1 生涯学習の推進に向けた構想・計画（基本構想・基本計画等）				
2 社会教育の推進に向けた構想・計画（中期計画・単年度計画等）				
3 スポーツ活動の推進に向けた構想・計画				
4 文化芸術活動の推進に向けた構想・計画				
5 読書活動の推進に向けた構想・計画				
6 その他の構想・計画等				

III 生涯学習推進に係る附属機関・外部組織等の設置について

	有無	組織等の名称	人数	設置根拠
1 生涯学習審議会				
2 社会教育委員の会議				
3 スポーツ審議会				
4 文化審議会				
5 その他の生涯学習推進に係る外部組織等				

IV 生涯学習推進に係る行政組織・体制等について

	有無	組織等の名称
1 生涯学習課、社会教育課等、教育委員会の所管部署		
2 首長部局で生涯学習を所管している場合の所管部署		
3 生涯学習推進本部・会議等、行政内の連携を促進する組織・会議等		
4 生涯学習推進センター等、調査・研究機関		

V 子供たちを支える生涯学習活動の取組について

※「主な取組や事業」は代表例や特徴的なものを1つ入力してください。

	教育委員会		首長部局		関係団体・民間等	
	有無	主な取組や事業	有無	主な取組や事業	有無	主な取組や事業
1 子供たちに対する自然体験、ボランティア等の体験活動の機会						
2 読書環境の整備や読書活動を支援する人材の育成などの取組						
3 子供たちが異年齢・異世代とつながる場などの居場所づくりの取組						
4 地域住民が学校教育や放課後活動を支援する取組						
5 望ましいメディアへの接し方やコミュニケーションなど、子供たちの今日的な課題を学ぶ機会						
6 子育てや育児に関する学習の機会						
7 アウトリーチ型の家庭教育・子育て相談などの取組						
8 家庭教育サポート企業と連携して実施する家庭教育を支援する取組（子育て環境づくり等）						

VI 現代的課題等に関する学習機会について

※「主な取組や事業」は代表例や特徴的なものを1つ入力してください。

		教育委員会		首長部局		関係団体・民間等	
		有無	主な取組や事業	有無	主な取組や事業	有無	主な取組や事業
1	環境に関する学習 ・地域の自然環境やその保全、 「木育」など						
2	食に関する学習 ・「食育」や食をとおした地域の 活性化など						
3	国際理解に関する学習 ・諸外国の人々とお互いの文化、 習慣等の理解など						
4	超高齢社会に関する学習 ・生活習慣病の予防、日常の介護 など						
5	防災に関する学習 ・自然災害等の危険性や安全な行 動など						
6	男女平等参画に関する学習 ・女性の人権尊重やハラスメント など						
7	安全・安心な生活に関する学習 ・疾病、犯罪、交通事故等の生 命・健康や防犯ボランティアなど						
8	消費生活に関する学習 ・悪質商法、訪問販売、金融など						
9	人権に関する学習 ・ドメスティックバイオレンス、 児童虐待、ネットトラブルなど						
10	障がい者福祉に関する学習 ・福祉制度や福祉のまちづくりな ど						
11	地域活動に関する学習 ・ボランティアや地域活動など						
12	子どもの貧困に関する学習 ・家庭が抱える経済や生活環境、学習 機会の格差の問題など						

VII 障がい者の生涯学習の推進について

(1) 貴教育委員会の域内で住民が参加できる障がい者の生涯学習活動に関する以下の情報を収集・把握していますか。

	該当するものに○
情報を収集・把握している	
情報を収集・把握していない	

(2) (1)で「把握している」と回答した場合、下記で該当するものを選択してください。(複数回答可)

	該当するものに○
1 教育委員会の主催事業（出先機関が主催するものを含む）	
2 首長部局の主催事業	
3 教育委員会が後援・関与する事業	
4 国が行う事業	
5 都道府県が行う事業	
6 特別支援学校等の学校による事業	
7 大学等による事業	
8 その他（社会福祉法人、NPO法人、民間企業等）	

VIII 生涯学習推進上の課題について

課題項目	程度
1 住民の生涯学習に対する意識やニーズの把握	
2 住民に対する生涯学習の普及・啓発	
3 行政職員に対する生涯学習の普及・啓発	
4 生涯学習担当職員の増員や予算の増額などの人的・物的整備	
5 生涯学習を推進する施設や設備の整備	
6 学習情報の提供や相談体制の整備	
7 生涯学習推進協議会等、生涯学習を推進する住民組織の整備・充実等	
8 生涯学習推進本部等、生涯学習を推進する行政内組織の整備・充実等	
9 学校・家庭・地域の連携の促進	
10 他の市町村にはない特色のある事業、施策の創出	
11 生涯学習指導者やリーダー的人材の養成	
12 生涯学習を推進する団体・サークルの育成	
13 学習した成果を生かす場や方策の検討	
14 その他	

5 極めて重要である
4 重要である
3 どちらともいえない
2 あまり重要ではない
1 全く重要ではない

具体的に記入ください

令和4年度(2022年度) 生涯学習に関する住民の意識調査



生涯学習とは…

「生涯学習」とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など、様々な場や機会において行う学習の意味で用いられます。また、人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会を指すものとして、「生涯学習社会」という言葉も用いられます。(文部科学白書2018より引用)

アンケート調査にご協力をお願いいたします。



👉 アンケートフォーム

このアンケート調査は、Googleフォームによる回答が可能です。左のQRコードをスマートフォン等で読み込むことにより、アンケートフォームから同じ調査に参加いただけます。

👉 ウラ面を見ながら回答してください👉

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

ボランティア活動



野球やサッカーなどの
スポーツ活動



将棋教室

学校での勉強



せんが

「生涯学習」 です。



ヨガ



研修会や講習会への参加

インターネット講座



家で読書



語学学習



料理教室



自治会活動

書道教室



自然体験



美術館で作品鑑賞



図書館での調べ物

学校での勉強も、いろいろなスポーツに挑戦することも、会社でスキルアップのために研修を受けることも、キャンプなどの自然体験も、地域清掃や防犯パトロールなどのボランティア活動も、習い事、将棋や囲碁などの趣味活動も、読書や家庭での勉強も、すべて生涯学習です。生涯学習は、知識の習得、能力の向上などによる自己実現のためだけでなく、生きがいや心の充足、充実したゆとりある生活を創出するために自ら学ぶことも含んでいます。上に挙げた様々な活動は、生涯学習のほんの一部です。

学校教育も、社会教育も「生涯学習の一部」

生涯学習は、わたしたち一人一人が自らすすんで行うことを基本とするものです。

生涯学習は、できるだけ自分にあったやり方を選びながら生涯を通じて行うものです。

生涯学習は、学校や地域社会の中で行われるだけでなく、様々な機会に行われるスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動なども含むものです。

今回のアンケートは、この1年間の中で「何かひとつでも生涯学習活動をしたことがあったか」をお伺いするところから始まります。「生涯学習」だと意識せずに活動していても、振り返ると、「生涯学習」に当てはまるものだったということもあります。この1年の自分の活動をゆっくり振り返りながら、アンケートへのご協力をお願いいたします。



アンケートフォーム

生涯学習に関する住民の意識調査 [調査票]

<調査の趣旨>

このアンケートは、普段、皆さんが生涯学習についてどのようなお考えをおもちになっているかを調査することにより、北海道らしい生涯学習社会の実現に向けた施策の方向性等を検討するための資料とするものです。
御多忙中のところ、誠に恐縮ですが、本調査の趣旨を御理解いただき、率直な御意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

<記入に当たってのお願い>

- お答えいただく方のお名前や住所などは、記入する必要はありません。
- 質問には、回答を1つだけ選んでいただく質問、複数選んでも構いませんが、**回答数が制限されている質問や回答数に制限のない質問**がありますので、注意してください。
- 回答の際は、質問ごとに用意した選択肢の中から、あなたのお考えにあてはまる選択肢の**番号を○印で囲んでください**。「その他」に○印をつけた方は、()内に具体的な内容を記入してください。
- 一部の方だけに答えていただく質問もありますが、その場合は説明文がありますので、指示にしたがってお答えください。

<調査票の御返送について>

- 回答を御記入いただいた調査票は、記入漏れのないことをお確かめの上、市町村(教育委員会)の担当者にお渡しください。(お名前や住所の記入は不要です。)

<使用目的と調査票の破棄>

- この調査票に記入された内容については、統計処理以外の目的に使用することはありません。
- 集計後の調査票は、責任をもって処分しますので、個人の秘密は守られ、御迷惑がかかることはありません。

◆調査についての問い合わせ先◆

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課 人材育成・開発グループ 兼
北海道立生涯学習推進センター 担当：松浦、斉藤

TEL：011-204-5782 FAX：011-261-7431

「生涯学習」について

この調査における「生涯学習」とは、人々が生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や公民館における社会教育など、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動など、さまざまな学習活動のことをいいます。

問1 あなたは、この1年くらいの間に「生涯学習」を行いましたか。次の中から**1つだけ**お選びください。

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 生涯学習を行(おこな)った ⇒ | 問1-1、問1-2、問1-3へ |
| 2 生涯学習を行(おこな)っていない ⇒ | 問2へ |

[問1で「1 行(おこな)った」と回答された方のみにお聞きします]

問1-1 あなたは、その学習活動をどのような場所や形態で行いましたか。次の中からあてはまるものを**いくつでも**お選びください。

- | |
|------------------------------------|
| 1 公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座や教室 |
| 2 カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育 |
| 3 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室 |
| 4 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程 |
| 5 職場の教育、研修 |
| 6 同好会が自主的に行っている集まり、サークル活動 |
| 7 図書館、博物館、美術館 |
| 8 テレビやラジオ |
| 9 情報端末やインターネット |
| 10 自宅での学習活動(書籍など) |
| 11 ボランティア活動など地域での活動をとおしての学習 |
| 12 その他(具体的に：) |

[問1で「1 行（おこな）った」と回答された方のみにお聞きします]

問1-2 あなたがこの1年くらいの間に行った学習活動について、次の中からあてはまるものをいくつかもお選びください。

- | | |
|----|--|
| 1 | 趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など） |
| 2 | 教養的なもの（文化、歴史、科学、語学など） |
| 3 | 社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など） |
| 4 | 健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など） |
| 5 | 家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など） |
| 6 | 育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など） |
| 7 | 就職や転職のために必要な知識・技能（就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得など） |
| 8 | 職業において必要な知識・技能（現在の仕事のスキルアップや仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など） |
| 9 | 情報通信分野の知識・技能（SNSの利用の仕方など） |
| 10 | ボランティア活動のために必要な知識・技能 |
| 11 | 自然体験や生活体験などの体験活動 |
| 12 | その他（具体的に： _____) |

[問1で「1 行（おこな）った」と回答された方のみにお聞きします]

問1-3 あなたは、その学習活動を通じて身につけた知識・技術や経験をどのように生かしていますか。次の①～⑦のそれぞれについて、1～6から1つだけお選びください。

	生かしている	いえるばち生かして言	言えちらないも	いえないばち生かして言	い生かしていな	わからな	
①	仕事や職業で生かしている	1	2	3	4	5	6
②	資格の取得に役立っている	1	2	3	4	5	6
③	まちづくりやボランティア活動などに生かしている	1	2	3	4	5	6
④	子どもたちを育むための活動に生かしている	1	2	3	4	5	6
⑤	他の人（子どもたちを除く）の学習やスポーツ活動、文化活動などの指導に生かしている	1	2	3	4	5	6
⑥	自分の人生をより豊かにしている	1	2	3	4	5	6
⑦	自分の健康維持・増進に役立っている	1	2	3	4	5	6

[問1で「2 行（おこな）っていない」と回答された方のみにお聞きします]

問2 この1年間で「生涯学習」を行わなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつかもお選びください。

- | | | | |
|----|-----------------------------------|---|----------------------|
| 1 | 仕事が忙しくて時間がない | 2 | 特に必要がない |
| 3 | きっかけがつかめない | 4 | 家事・育児・介護などが忙しくて時間がない |
| 5 | 身近なところに学習する場がない | 6 | 時間帯が希望に合わない |
| 7 | 学習するための費用がかかる | 8 | 学習より優先したいことがある |
| 9 | 一緒に学習する仲間がいない | | |
| 10 | 学習するのに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できない | | |
| 11 | 学習したい内容の講座が開設されていない | | |
| 12 | 学習しても職場から評価されない | | |
| 13 | その他（具体的に： _____) | | |

[問3からは全員お答えください]

問3 あなたは、現在の生活や生きがいについて、どのように感じていますか。次の①・②のそれぞれについて、1～6から1つだけお選びください。

	とても思う	言えちばら思かうと	言えちないも	思言えちわなばらか	い全く思わな	わからな	
①	あなたは現在の生活に満足していますか。	1	2	3	4	5	6
②	あなたは生きがいを感じて生活していますか。	1	2	3	4	5	6

問6 あなたは、各地域活動やボランティア活動の参加についてどのように考えていますか。次の①～⑤のそれぞれについて、1～5から1つだけお選びください。

	し今と参 た後が加 いもあし 参りたこ 加	た参がと参 い加`が加 し今なし て後いたこ みは	な参がと参 い加、が加 し今あし た後るたこ くは	し今と参 た後が加 くもなし ない参くたこ い加	わ か ら な い
① 学校教育を支援する活動	1	2	3	4	5
② 生活課題を抱える人や子育てなどを支援する活動	1	2	3	4	5
③ ボランティア活動や災害復旧などを支援する活動	1	2	3	4	5
④ 地域活性化などのまちづくりや子ども会指導、自治会活動	1	2	3	4	5
⑤ 自然保護の活動やリサイクル運動などの環境保全などに関する活動	1	2	3	4	5

※生活課題の例：障がい・高齢者など家族の問題、不登校・いじめなど子どもの問題、近所トラブル、DV、独居など(内閣府の調査から)

問7 多くの人が地域活動や社会活動に参加するようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。この中からいくつでもお選びください。

- 1 地域や社会に関する講習会の開催など、活動への参加につながるようなきっかけづくり
- 2 地域や社会での活動に関する情報提供
- 3 活動の成果が社会的に評価されること
- 4 交通費などの必要経費の支援
- 5 コーディネーターなど、地域や社会での活動を支える人的体制や活動の拠点となる場が整っていること
- 6 わからない
- 7 その他(具体的に)

問8 あなたは、機会があれば再び学びたいと思うものはありますか。次の1～16からいくつでもお選びください。

- 1 日本語による実用的な文章表現やコミュニケーションの方法に関すること
- 2 文学や古典(古文や漢文)の理解に関すること
- 3 日本や世界の歴史・地理に関すること
- 4 法律や政治、経済、国際関係に関すること
- 5 宗教や哲学に関すること
- 6 心理学に関すること
- 7 自然科学や数学に関すること
- 8 健康やスポーツに関すること
- 9 芸術文化(音楽、芸術など)に関すること
- 10 外国語に関すること
- 11 消費生活、衣食住などに関すること
- 12 情報通信分野(SNSの利用の仕方など)に関すること
- 13 工業技術(情報通信に関するものを除く)に関すること
- 14 農林水産業に関すること
- 15 経営ビジネス(起業、財務会計、マーケティングなど)に関すること
- 16 医療や福祉(子育て、保育、介護など)に関すること

◇最後にあなた自身のことについておたずねします。

■ 市町村名を記入してください。

市町村名	
------	--

■ 性別・職業・年齢の該当する番号に○印をつけてください。

性別	1. 男 2. 女	職業	1. 学生 2. 会社員・公務員 3. パート・アルバイト 4. 自営業 5. 無職
年齢	1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上		

■ 「まちづくり」や「むらおこし」などのボランティア団体や、NPO等に所属していますか。

1. はい(団体名:)	2. いいえ
--------------	--------

■ 道民カレッジ※の受講生ですか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

※道民カレッジは、北海道知事を学長としており、だれでも、いつでも、入学することができます。また、受講生は学んだことを地域で生かすことができます。

ご協力ありがとうございました。 調査票は市町村の担当者にお渡しく下さい。

ほっかいどう学地方創生塾実施要領

(平成 29 年 1 月 25 日道民カレッジ本部決定)

[一部改正] 平成 29 年 12 月 21 日、平成 31 年 1 月 16 日、令和元年 5 月 31 日、令和 2 年 3 月 13 日

この要領は、「ほっかいどう学地方創生塾」の実施について、必要な事項を定める。

1 目的

- (1) 本事業は、地域の様々な機関や住民等との連携によるワークショップや講演等の実施を通して、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成し、地域の活性化に寄与することを目的とする。
- (2) 課題解決を目指す住民参画型の事業を実証開発し、プロセス・手段とその評価について検証する。

2 内容

本事業は、次に掲げる事項に関して、本事業の実施を希望する市町村（広域を含む）や団体等と調整のうえ、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成するための参画型の講座を実施するものとする。

- (1) 参加者や会場の確保
- (2) メイン講師の選定
- (3) 年度計画、各年次計画の作成
- (4) 具体的な内容・プログラム
- (5) 各講座実施後の報告
- (6) 講座終了後の参加者のフォローアップ
- (7) その他、講座の実施に必要な事項

3 募集及び申込み

「ほっかいどう学地方創生塾募集要項」を作成し、「ほっかいどう学地方創生塾」申込書（別紙様式 1）により、10 月末までに翌年度の実施希望市町村を取りまとめる。

4 開催地の決定

以下の要件を勘案して開催地を決定する。なお、開催地は道内 2 会場とする。

- (1) 参加者は道民カレッジ生、または、地域で活動する意思を持つものであること。
- (2) 講座終了後も継続的に修了者に関わり、地域活動につなげる具体的なビジョンを持っていること。
- (3) 高等教育機関や NPO、民間団体、近隣市町村等とのネットワークを構築しながら実践的な研修の実施を想定していること。
- (4) 事業の効果を高めるために、連続した 5 回程度（うち講師派遣 2 回程度、北海道立生涯学習推進センター職員派遣 3 回程度）の講座を実施すること。
- (5) 事業実施は 2 年間とし、事業実施後も含めた中・長期的な人材育成計画により実施すること。

5 講座実施後の働きかけ

- (1) 講座終了後、修了者に対して、修了者の関心のある地域活動や専門研修等につながる情報提供を継続する。
- (2) 講座終了後、アンケート等を実施することにより、修了者の活動状況を把握するとともに、修了者への継続的な働きかけが実施されるように支援する。

6 費用の負担

- (1) 会場の借りに係る費用は申込者の負担とする。
- (2) 講師及び北海道立生涯学習推進センター職員の派遣に係る費用は北海道立生涯学習推進センターの負担とする。

7 単位認定等

本講座の受講による単位認定は、「学習単位認定及び称号・奨励賞授与等取扱要領」に基づき、講座の8割以上に出席したものを修了者として、ほっかいどう学必修単位4単位を認定する。

8 全講座終了後の報告書の作成と各講座実施後の報告

- (1) 申込者は、全講座終了後、「ほっかいどう学地方創生塾」実施報告書（別紙様式2）を作成する。
- (2) 申込者は、各講師派遣講座実施後、実施内容や参加者の取組の様子などを報告する。（別紙様式3）

9 その他

この要領に定めるもののほか、本事業の実施に当たり必要な事項は、本部が別に定める。

附則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成30年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和元年5月31日から施行する。

附則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

令和2年度 ほっかいどう学地方創生塾開催要項

1 目 的

- (1) 本事業は、地域の様々な機関や住民等との連携によるワークショップや講演等の実施を通して、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成し、地域の活性化に寄与することを目的とする。
- (2) 本事業は、北海道立生涯学習推進センターの調査・研究として、課題解決を目指す住民参画型の事業を実証開発し、プロセス・手段とその評価について検証する。

2 主 催 北海道立生涯学習推進センター及び各会場実施団体

3 期 日 令和2年(2020年)4月～令和3年(2021年)3月(各会場5回程度)

4 内 容 本事業は、次に掲げる事項に関して、実施団体と調整のうえ、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成するための参画型の講座を実施する。

5 運 営 者 北海道立生涯学習推進センター、各会場実施団体、
各教育局教育支援課社会教育指導班

6 会 場

	開催日(予定)	会場	参加対象
鷹栖町	6月～12月	鷹栖地区住民センター	町内在住の高校生、 町内の高等学校に通学する高校生
芦別市	6月～12月	芦別市民会館	市内の高等学校に通学する高校生
網走市	6月～12月	市内コミュニティセンター	町内会、各地区コミュニティセンター 運営委員
伊達市	6月～12月	大滝基幹集落センター	おおたき新聞くらぶ、 地域住民

7 参加人数 各会場10名程度

令和3年度（2021年度）ほっかいどう学地方創生塾開催要項

1 目 的

- (1) 本事業は、地域の様々な機関や住民等との連携によるワークショップや講演等の実施を通して、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成し、地域の活性化に寄与することを目的とする。
- (2) 本事業は、北海道立生涯学習推進センターの調査・研究として、課題解決を目指す住民参画型の事業を実証開発し、プロセス・手段とその評価について検証する。

2 主 催 北海道立生涯学習推進センター及び各会場実施団体

3 期 日 令和3年(2021年)4月～令和4年(2022年)3月（各会場5回程度）

4 内 容 本事業は、次に掲げる事項に関して、実施団体と調整のうえ、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成するための参画型の講座を実施する。

5 運 営 者 北海道立生涯学習推進センター
各会場実施団体
空知教育局教育支援課社会教育指導班
上川教育局教育支援課社会教育指導班

6 会 場

	開催日（予定）	会場	参加対象
芦別市	5月～12月	芦別市民会館	市内の高等学校に通学する高校生
鷹栖町	5月～12月	鷹栖地区住民センター	町内在住の高校生、 町内の高等学校に通学する高校生

7 参加人数 各会場10名程度

令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事業

鷹栖町教育委員会高校生プロジェクト～事前アンケート～

この度は、プロジェクトにご参加いただきありがとうございます。本プロジェクトは、地域の様々な団体や世代と連携し、ワークショップや講演などに参加することを通して、自分の未来やマチの未来を考えるとともに、地域における人づくり地域づくりを目的として行う事業です。本事業の効果的な実施、プロジェクトの効果の測定のため、以下のアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

1 「高校生プロジェクト」について現在不安なことや分からないことについてご記入ください。

2 以下の各項目で、現在のあなたの「知識・理解」「意識」などの度合いについて、あてはまる数字に○をつけてください。

	高い		やや高い		やや低い		低い
(1) 鷹栖町のまちづくりの進め方についての理解	4	—	3	—	2	—	1
(2) 鷹栖町への愛着の度合い	4	—	3	—	2	—	1
(3) プロジェクト(活動)を進める上で必要なことの知識・理解	4	—	3	—	2	—	1
(4) このプロジェクトへのあなたのやる気の度合い	4	—	3	—	2	—	1
(5) 高校生や若い世代がまちの活性化に向けて活動することが必要だと思う度合い	4	—	3	—	2	—	1
(6) 自分の10年後の姿のイメージの完成度	4	—	3	—	2	—	1

ご協力ありがとうございました。

令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事業

鷹栖町教育委員会高校生プロジェクト～事後アンケート～

この度は、プロジェクトにご参加いただきありがとうございました。本プロジェクトの今後の事業運営に生かすため、以下のアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

- 1 「高校生プロジェクト」について現在不安なことや分からないことが解消されたことについてご記入ください。

- 2 以下の各項目で、プロジェクトに参加することによって「知識・理解」「意識」などが、どの程度高まったか、その度合いについて、あてはまる数字に○をつけてください。

	高い	やや高い	やや低い	低い			
(1) 鷹栖町のまちづくりの進め方についての理解	4	—	3	—	2	—	1
(2) 鷹栖町への愛着の度合い	4	—	3	—	2	—	1
(3) プロジェクト(活動)を進める上で必要なことの知識・理解	4	—	3	—	2	—	1
(4) このプロジェクトへのあなたのやる気の度合い	4	—	3	—	2	—	1
(5) 高校生や若い世代がまちの活性化に向けて活動することが必要だと思う度合い	4	—	3	—	2	—	1
(6) 自分の10年後の姿のイメージの完成度	4	—	3	—	2	—	1

- 3 今回参加して、心に残ったことや心境の変化、これからに向けて取り組みたいことなどありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事業

芦別市地方創生塾～事前アンケート～

この度は、地方創生塾（探究活動グループ）にご参加いただきありがとうございます。本事業は、地域の様々な団体や世代と連携し、ワークショップや講演などに参加することを通して、自分の未来やマチの未来を考えるとともに、地域における人づくり地域づくりを目的として行う事業です。本事業の効果的な実施、プロジェクトの効果の測定のため、以下のアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

1 地方創生塾について現在不安なことや分からないことについてご記入ください。

2 以下の各項目で、現在のあなたの「知識・理解」「意識」などの度合いについて、あてはまる数字に○をつけてください。

	高い		やや高い		やや低い		低い
(1) 芦別市のまちづくりの進め方についての理解	4	—	3	—	2	—	1
(2) 芦別市への愛着の度合い	4	—	3	—	2	—	1
(3) 活動を進める上で必要なことの知識・理解	4	—	3	—	2	—	1
(4) この活動へのあなたのやる気の度合い	4	—	3	—	2	—	1
(5) 高校生や若い世代がまちの活性化に向けて活動することが必要だと思う度合い	4	—	3	—	2	—	1
(6) 自分の10年後の姿のイメージの完成度	4	—	3	—	2	—	1

ご協力ありがとうございました。

令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事業

芦別市地方創生塾～事後アンケート～

この度は、地方創生塾（探究活動グループ）にご参加いただきありがとうございました。本取組の今後の事業運営に生かすため、以下のアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

1 地方創生塾について現在不安なことや分からないことが解消されたことについてご記入ください。

2 以下の各項目で、地方創生塾に参加することによって「知識・理解」「意識」などが、どの程度高まったか、その度合いについて、あてはまる数字に○をつけてください。

	高い	やや高い	やや低い	低い			
(1) 芦別市のまちづくりの進め方についての理解	4	—	3	—	2	—	1
(2) 芦別市への愛着の度合い	4	—	3	—	2	—	1
(3) 活動を進める上で必要なことの知識・理解	4	—	3	—	2	—	1
(4) この活動へのあなたのやる気の度合い	4	—	3	—	2	—	1
(5) 高校生や若い世代がまちの活性化に向けて活動 することが必要だと思う度合い	4	—	3	—	2	—	1
(6) 自分の10年後の姿のイメージの完成度	4	—	3	—	2	—	1

3 今回参加して、心に残ったことや心境の変化、これからに向けて取り組みたいことなどありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

令和2年度ほっかいどう学地方創生塾事後アンケート(参加者用)

令和2年度ほっかいどう学地方創生塾に参加いただき、ありがとうございました。これまでの活動の振り返りのために、本アンケートに御協力くださいますようお願いいたします。

下記の質問項目について該当する番号に○をつけてください。

- ① : よく当てはまる ② : 少し当てはまる ③ : あまり当てはまらない ④ : 当てはまらない

1 参加の動機について

		よく当てはまる				当てはまらない			
(1)	まちのために活動したいと考えたから	①	—	②	—	③	—	④	
(2)	仲間がほしかったから	①	—	②	—	③	—	④	
(3)	周囲に誘われた・勧められたから	①	—	②	—	③	—	④	
(4)	何かしたいと思ったから	①	—	②	—	③	—	④	
(5)	その他(具体的に記入)								

2 地方創生塾を通して、「身についた」「向上した」「新たな気づきがあった」ことについて

(1)	自分の考えを的確に相手に伝えること	①	—	②	—	③	—	④
(2)	新たな人間関係をつくること	①	—	②	—	③	—	④
(3)	まちのことを考えること	①	—	②	—	③	—	④
(4)	まちのために活動する意欲	①	—	②	—	③	—	④
(5)	まちをより好きになったこと	①	—	②	—	③	—	④
(6)	その他(具体的に記入)							

3 今後、この講座での学びを生かし、まちのために活動したいと思いますか？

思う ・ 思わない

「思う」と回答した方は、どのようなことをしてみたいですか？

ありがとうございました。

令和3年度（2021年度）「ほっかいどう学地方創生塾」アンケート

この度は、プロジェクトにご参加いただきありがとうございます。本プロジェクトは、地域の様々な団体や世代と連携し、ワークショップや講演などへの参加を通して、自分の未来やマチの未来を考えるとともに、地域における人づくりや地域づくりを目的として行う事業です。本事業の効果的な実施、プロジェクトの効果の測定のため、アンケートにご協力ください。

アンケート項目は、地域・NPO・企業・行政等と協働するために欠かすことのできない資質・能力を測定するもので、事業終了時にも同様のアンケートを実施します。なお、調査結果は統計的な処理を行い、報告書等で公表する場合は図や表で示すため、個人の情報が特定されることはありません。

1 ご自身についてお書きください

所属：() 学年：() 氏名：() 居住地：() 市・町 記入日：(月 日)

2 プロジェクトへ参加するに当たっての目標

3 以下の項目について、現在の自分について、次の5段階（5 よくあてはまる 4 まあまああてはまる 3 どちらでもない 2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない）の中から番号を1つ選んで○で囲んでください

1	集団で行動するとき先頭に立ってみんなを引っ張っていくことができる	5	4	3	2	1
2	メンバーに対して的確な指示が出せる	5	4	3	2	1
3	自分が行動を起こすことによって、周りの人を動かすことができる	5	4	3	2	1
4	私は初対面の人でも気軽に話すことができる	5	4	3	2	1
5	自分の意見を相手に伝えることができる	5	4	3	2	1
6	相手の話を積極的に聴く姿勢をとることができる	5	4	3	2	1
7	メンバーに対して、受容的、肯定的な態度をとるよう心掛けている	5	4	3	2	1
8	周囲の人や物事との関係を理解できる	5	4	3	2	1
9	メンバーの失敗に対して責任を持つことができる	5	4	3	2	1
10	自分の置かれた環境・状況をよく理解している	5	4	3	2	1
11	周りの人々の役割と自分の関係をよく認識している	5	4	3	2	1
12	自分に課せられた役割や使命をしっかりと自覚している	5	4	3	2	1
13	何かに取り組む際に、先を見通して計画を立てることができる	5	4	3	2	1
14	取り組むべき課題を明確に分析している	5	4	3	2	1
15	さまざまな情報源から情報を集め、それを活用することができる	5	4	3	2	1
16	数多くの情報の中から、本当に自分に必要な情報を吟味し、手に入れることができる	5	4	3	2	1
17	仕事をするときに、順序立てて何をどうやって取り組んでいけばよいかを決めることができる	5	4	3	2	1
18	目標達成の手段・方法を考え確実に進めていくことができる	5	4	3	2	1
19	相手と自分の意見が食い違った場合、相互に有益な妥当点を見出せる	5	4	3	2	1
20	相手の要求を考えて、自分の提案を修正できる	5	4	3	2	1
21	相手と自分の意見が異なっても、話し合いを重ねる中で意見の折り合いをつけることができる	5	4	3	2	1
22	交渉相手の感情を逆なでせずに、合意の達することができる	5	4	3	2	1
23	相手の要求が自分の意図に反しても、平常心で柔軟に対応できる	5	4	3	2	1
24	論理的に自分の考えを述べ、相手を納得させることができる	5	4	3	2	1
25	相手が納得できるように話すことができる	5	4	3	2	1
26	相手の質問に対して的確に答えることができる	5	4	3	2	1
27	自分のことを理解してもらえるように話すことができる	5	4	3	2	1

御協力ありがとうございました

本調査研究に関するお問い合わせ

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目「かでの2・7」8階
北海道立生涯学習推進センター

電話 011-204-5782

FAX 011-261-7431

E-mail kensyu@manabi.pref.hokkaido.jp

HP「生涯学習ほっかいどう」

<https://manabi.pref.hokkaido.jp/index.html>

調査研究報告書（第44号）

令和5年3月発行

編集・発行 北海道立生涯学習推進センター
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目
電話 011-204-5782